

2019年夏期

ドイツ国際マスタークラス ドイツ国立音楽大学共同事業

要 項



TIAA

企画 東京国際芸術協会

渡航手配業務 株式会社東京国際ツアーズ

<主 旨>

音楽の勉強に意欲的な音楽家を対象に、豊かな表現力の習得や新たな可能性を引き出すための学習機会を提供することで、国際的に活躍できる音楽家の育成を行い、音楽文化の発展や向上に寄与することを目的として開催します。

<実施概要>

2019年7月から8月にかけて開催されるドイツ国際マスタークラスは、ドイツで最高位にあたる音楽大学の教授を招聘したマスタークラスです。ベルリン芸術大学やハノーヴァー音楽大学等の著名教授たちがケルン音楽大学教授に加わりマンツーマンでレッスンをを行います。期間中には教授陣によるコンサートも開催されます。

<マスタークラス受講期間日程>

A日程: 2019年7月17日(水)~7月21日(日)

B日程: 2019年7月25日(木)~7月29日(月)

C日程: 2019年8月1日(木)~8月5日(月)

<渡航日程>

A日程: 2019年7月16日(火)日本出発~7月23日(火)日本着(22日現地出発)

B日程: 2019年7月24日(水)日本出発~7月31日(水)日本着(30日現地出発)

C日程: 2019年7月31日(水)日本出発~8月7日(水)日本着(6日現地出発)

※現地滞在期間は6泊7日、他に機中泊1泊となります

<開催地>

ハレマルティンルター大学及びライプツィヒ音楽大学

<受講対象楽器>

弦楽器、ピアノ

※声楽・管楽器対象のレッスンはございません

<レッスン曲>

全自由曲。60分レッスンを4回受講。

※曲の構成については、説明会(参加必須)時に現地教授陣アシスタントとの個別相談により変更も可能です

※第1次締切日までにお申込みの場合、希望教授の指名が可能です。ただし、申込状況によりご希望にそえない場合もございます。

※4レッスンのうち2レッスンずつで教授を変更することが可能です

<マスタークラス参加費>

申込金: 190 ユーロ

受講料: 450 ユーロ

聴講料: 180 ユーロ ※受講生以外の同行者は大学の入館に際し聴講料が必要となります

通訳料: 165 ユーロ ※本マスタークラスは同時通訳の手配が必須となります

※申込金と受講料及び通訳料はご請求発行時の弊会規定レートにて計算し、日本円でご請求いたします

<渡航費用> ※渡航業務に関しては東京国際芸術協会より(株)東京国際ツアーズへ委託いたします。

株式会社東京国際ツアーズ 観光庁長官登録旅行業 1353号 (社)日本旅行業協会正会員

〒116-0002 東京都荒川区荒川 3-74-6-301 TEL 03-6806-7820 FAX 03-3806-8556 master@ti-tours.com

第1次締切までのお申込 A日程 349,700円 B・C日程 369,700円

第2次締切までのお申込 A日程 369,700円 B・C日程 389,700円

【渡航費用に含まれるもの】

- 1) ホテル宿泊代金 (2人部屋6泊7日・朝食込み)
- 2) 往復航空券代金
- 3) 食事代金(夕食4回)
- 4) 現地空港からホテルまでの交通費
- 5) 現地教授陣アシスタントの先生(通訳兼務)同行費 ※TIAAより派遣
- 6) 海外送金手数料

【渡航費用に含まれないもの(主たる例)】

下記費用は上記渡航費用に含まれません。

- 1) 事務手続き代金 21,600円
- 2) 航空券手配に伴う諸費用(燃油サーチャージ、国内空港使用料、航空保険料、現地国際空港税) 約65,000円

- 3) マスタークラス申込金および受講費、聴講費、通訳料
- 4) レッスン受講時の移動にかかる交通費
- 5) 食事時の飲み物代金
- 6) 自由行動中にかかる費用

航空券はご自身でお手配いただくことも可能です。その場合、航空券代金相当額として渡航費用から以下の金額を減額いたします。

(A 日程) 170,000 円 (B・C 日程)190,000 円

※1 人部屋をご希望の場合、別途 30 ユーロ/1 泊の追加料金が必要です(航空券自己手配の方は1人部屋の手配となります)。

※2 人部屋のご利用はお申込の先着順で承ります。そのため、2人部屋のご希望者が奇数名いらっしゃる場合は、最後のお申し込みの方に自己負担にて1人部屋をご利用いただきます。

～宿泊・食事について～

- ・朝食(毎朝)・夕食(4回)込み。朝食はホテルでのビュッフェ。昼食は現地のランチスタイルにしたがって各自でお取りいただきます(費用は自己負担)。夕食はレストランでの食事(飲み物は自己負担)となります。なお、食事は原則として皆様で一緒にお召上がりいただきます。指定された時間に集合できない場合は権利を放棄したものとみなします。個別手配、返金対応は一切いたしません。
- ・ホテルでの滞在およびレッスンへの往復の行程及びレッスン時において教授陣アシスタントが同行します。現地での行程の詳細につきましては、説明会にてご案内いたします。
- ・宿泊は主催者側指定のホテル(1ヶ所)での滞在です。ホテルには現地教授陣アシスタントも一緒に滞在いたします。

～渡航について～

- ・成田空港または羽田空港発着便の利用となります。到着空港で現地教授陣アシスタントの先生が出迎えます。渡航時の注意点等については説明会で詳細な説明を行います。
- ・帰国便ではABC全ての日程コースで現地でのチェックイン完了時まで現地教授陣アシスタントの付き添いがございます。チェックイン後の付き添いはございません。
- ・関東地区以外の発着便をご希望の場合は、第1次締切までのお申込に限り国内線の乗継便のお手配を承ります。また、原則として全日空便で24時間以内の乗継便に空席がある場合のみお手配を承ります。その場合、国内線分の代金を別途御請求申し上げます。出入国前後で日本国内の宿泊先が必要な場合もお手配いたしますので、ご希望の方はご相談ください。
- ・マスタークラス終了後の延泊や、他都市を周遊してからの帰国をご希望の場合、可能な範囲で帰国便の変更やホテル、オプションツアーのお手配を承ります。なお、帰国便の変更については別途航空券代の差額が発生する場合がございます。また、マスタークラス終了後の延泊期間及びその帰国便については自己責任の範疇となりますことを予めご了承ください。
- ・チェロ等、飛行機内への持ち込みに制限がある楽器につきましては、機内座席を参加者ご自身の席を含め2席購入していただく場合がございます。詳しくはお問い合わせください。

～航空券を自己手配される方への注意点～

- ・航空券自己手配の場合、ライブツィヒ空港(またはベルリン空港)に弊会手配の飛行機の到着時間に合わせてご集合いただき、一緒に滞在先のホテルまでご案内します。先にホテルへ向かうことはできません。必ず空港へご集合ください。現地空港での集合時間は申込締切後にお伝えします。なお、帰国時はホテルにて解散となりますので、ご自身で空港まで移動していただきます。弊会手配の飛行機と同時間帯でも、空港まではご自身での移動となります。
- ・航空券自己手配の方は、後日利用飛行機会社、便名、出発および到着日時をお知らせください。
- ・自己手配の方が飛行機の遅延等によって集合時間にお集まりいただけない場合はご自身でホテルまで移動をお願いいたします。
- ・上記事情においてホテルの滞在期間やレッスンの受講に変更が生じた場合でも当協会は一切の責任を負いません。また、ホテル代、レッスン代等の返金は一切いたしかねます。自己の責任においてご対応をお願いいたします。
- ・航空券自己手配の方は原則として1人部屋のみ受付となります。
- ・航空券を自己手配された方も例外なく、弊会の指定したホテルに宿泊していただきます。
- ・航空券を自己手配された場合の航空会社や機内でのトラブル等については、弊会は一切責任を負いません。

<生活・費用等について>

- ・安全のため、夕食後にホテルへ戻ってからの外出は原則としてご遠慮いただきます。
- ・事前説明会ではマスタークラスの説明の他、同行する現地教授陣アシスタントが曲目に関する助言や、レッスンの形態、現地での生活などの様々な疑問に対する回答をいたします。説明会にてご案内した内容については遵守していただきますのでご了承ください。また、留学をお考えの方々に対してはアドバイスもいたします。説明会は一括説明の後に、個別質問の受付、その後個別相談という形式で行います。
- ・原則として滞在中は団体行動となりますため、お互いに配慮した行動をお願いいたします。

<海外旅行保険について>

本マスタークラスの参加にあたってはご滞在期間をカバーする海外旅行保険の加入が義務付けられています。説明会までに必ずご加入いただき、保険証券のコピーを説明会時にご持参ください。なお、弊会でお勧めする海外旅行保険のパンフレットは、お申込後にお送りいたします。

<マスタークラス参加及び渡航の際の注意点>

マスタークラス開催期間中は、現地教授陣アシスタントの指示に全て従って頂きます。現地教授陣アシスタントは皆様のレッスン時の通訳や教授とのコミュニケーションのお手伝いをいたします。空港までの送迎等にも同行いたしますが、添乗員ではございませんので、ご参加の方は各自の責任において、渡航時及び現地滞在時の行動に注意を払っていただきますようお願いいたします。

<修了証>

マスタークラス修了後にマスタークラス修了証を授与いたします。

<申込方法>

申込書に必要事項を記入の上、パスポートのコピーを添えて下記事務局まで郵便にてお送りください。お申し込み後、内金として渡航費用の一部(10万円)をお振込みいただきます。お振込先はお申込書受領後にご案内いたします。お振込後、定員に達しないなどの理由により当マスタークラスが実施されない場合には全額をご返金いたします。申込書提出後の弊会、また現地教授アシスタントとの連絡手段は主にメールとなります。パソコンメールのアドレス(ない場合は携帯のアドレス)を必ずご記入下さい。また、メールを受信できるよう予め設定を行ってください。申込書提出後は弊会や教授陣アシスタントからのメールによる連絡を見落とさないようお願いいたします。

<申込締切日>

第1次申込締切日 2019年3月11日(月)必着 ※FAXの場合は同日18時必着

第2次申込締切日 2019年5月15日(水)必着

※締切日以前でも、申込者が定員になり次第、受付を終了いたします(定員 各日程6名)。

※最少催行人数(各日程3名)に達しない場合は日程の変更をお願いする場合がございます。

※お申し込み後、事務局よりご請求書を発行致しますので、指定口座へお振込みをお願いいたします。

※本マスタークラスではコンクール・オーディションにおいて成績優秀者に学費免除推薦が認められています。

・2018年6月～2019年5月までに弊会主催コンクールにて入賞・入選した方、新人演奏会オーディションにて合格・准合格された方

・2018年夏期・2019年春期・夏期海外音楽大学派遣助成オーディションにて合格・准合格された方

お申込み後でも学費免除推薦の申請を受付いたしますので、お早目のお申込みをおすすめします。

※主催者側における本マスタークラスの受付は3月中となっておりますが、弊会からのお申込みに限り特別に締切を延長していただいております。教授の指名や追加レッスンのお申込みは先着順となりますので、お早めにお申込ください。

<キャンセルについて>

お申し込み後のキャンセルの場合、以下のとおり所定のキャンセル料を申し受けます。

○渡航40日前から31日前までの取り消し 渡航費用の10% (B・C日程のみ)

○渡航30日前から3日前までの取り消し 渡航費用の20%

○渡航前々日までの取り消し 渡航費用の50%

○無連絡不参加及び旅行開始後の取り消し 渡航費用の100%

なお、事務手続き代金21,600円ならびにマスタークラス申込金は理由の如何を問わず、お申込後のご返金はいたしかねます。また、レッスン受講確定後のキャンセルの場合、マスタークラス受講費についてもご返金はいたしかねます。

<説明会について>

マスタークラス全体説明会を2019年6月2日(日)に都内会場にて行います。会場や日時等の詳細については決定次第お申込者様にご案内いたします。説明会には必ずご参加をお願いいたします。ご参加者本人のご都合がどうしてもつかない場合は、代理人(ご家族様)が必ずご参加ください。また、未成年の方は保護者様の参加もお勧めしております。

<お問合せ・お申込先>

東京国際芸術協会

〒116-0002 東京都荒川区荒川 3-74-6-301

TEL 03-6806-7108 FAX 03-3806-8555 <http://www.tiaa-jp.com> E-mail: info@tiaa-jp.com

<マスタークラス教授> ※各教授の担当日程は変更の可能性があります。詳細はお申込時にご案内いたします。

ピアノ



Wolfgang Manz (ニュルンベルク音楽大学教授)

1960年生まれ。マンツは、国際的に名声を得ている、クラシックのレパートリーを持ったピアニストである。これまでに様々な有名コンクールで入賞している。リーズ(1981年、第2位)、ブリュッセル(エリザベート王妃コンクール、1983年、第2位)など。さらに1980年にはベルリンでメンデルスゾーン・バルトルディ賞、また1989年にはアメリカ・テキサスのヴァン・クライバーンコンクールで審査員特別賞を得ている。マンツはふたつの異なる伝統の流れを受け継いでいる。ひとつは、レシエティツキ Leschetitzky の流れである東ヨーロッパの音楽の代表で、チェコのピアニスト、ドラホミール・トーマン Drahomir Toman から得たテクニックや音楽的なもの。もうひとつは、ハノーファー音楽大学にて、ロベルト・タイヒミュラー Robert Teichmüller のドイツの伝統を受け継いでいるカール＝ハインツ・ケマーリング Karl-Heinz Kämmerling から学んだものである。

コンクールで優秀な成績を得てから、ソリストとして様々なオーケストラ、室内楽団と共演。バッハから現代までのピアノ協奏曲のレパートリーは、約50曲におよぶ。これまでに著名なオーケストラ、指揮者と共演している。演奏活動をする傍ら、教育者としても名声を得ている。1986年から1999年までトリアーで毎年マスタークラスを開講し、またハノーファーとカールスルーエで教鞭を執っている。さらに2000年には、日本の大学に客員教授として招待されている。

エリザベート王妃コンクールやチャイコフスキーコンクールで入賞しているロルフ・ブラッグ Rolf Plagge とは、ヨーロッパではおなじみの「デュオ・ライネ・エリザベート Duo Reine Elisabeth」というピアノデュオを組んでいる。2000年10月にニュルンベルク・アウグスブルク音楽大学の教授に就任。



Hubert Rutkowski (ハンブルク音楽大学教授)

ワルシャワ・ショパン音楽アカデミーにて Anna Jastrzebska-Quinn 教授に師事。Krystyna Borucinska 教授のもとで室内楽を学び、Alicja Paleta-Bugaj 教授のもとで、博士研究を行う。2005-2010、ハンブルク音楽演劇大学にて Evgeni Koroliov 教授に師事し、大学院課程を修了。

2007年、ハノーバー・ショパン国際ピアノコンクール入選。2006年にはバルセロナのマリアカナルス国際ピアノコンクールにて“Medalla per Unanimitat”を受賞。また、1999年にはビリニュスショパン国際ピアノコンクールで第3位を、2000年にはワルシャワ・ショパン国際ピアノコンクールにて第1位を受賞。

数年前から19世紀以降の歴史的なピアノに情熱を持ち、ハンブルク美術工芸博物館にてピアニストかつ先生として勤務。Andreas Beuermann's コレクションの楽器を用いて演奏する一連のコンサートを開催している。彼はワルシャワのテオドール・レシエティツキ音楽協会の創設者であり、理事長を務めている。また、ハンブルク Sachsenwald ショパン協会とハンブルクにおけるドイツ・ポーランド音楽ピアノ・コンクールの芸術的な責任者でもある。2010年4月より、ハンブルク音楽演劇大学の最も若い教授の1人として就任。また、2011年11月からはブレーメン芸術大学にてピアノクラスの指導にあたっている。



Alexej Gorlatch (フランクフルト音楽大学教授)

1988年ウクライナ、キエフに生まれる。ハノーファー音楽大学にてカール・ハインツ・ケマーリングに師事。スタインウェイ・ピアノコンクール(2002年ベルリン、および2003年ハンブルク)、グロリアン＝シュタインヴェーク・ピアノコンクール(2003年、ブラウンシュヴァイク)、ファン・プレーメン・ピアノコンクール(2004年ドルトムント)にて優勝。また、2002年のロベルト・シューマン青少年コンクール(ツヴィッカウ)では第1位、併せて最優秀参加者としてユーディ・メニューイン賞を受賞。2005年10月、第15回フレデリック・ショパン国際ピアノコンクールでは、セミファイナリストとしてディプロマを受賞。2006年、国際アウグスト・エファアーディングコンクール(ミュンヘン)第1位、リヒャルト・ラウグス・ベートーヴェン・ピアノコンクール(マンハイム)第1位、併せてベートーヴェン後期ソナタ作品最優秀演奏賞を受賞した。同年11月、第6回浜松国際ピアノコンクールにて第1位、併せて日本人作品最優秀演奏賞を受賞。このコンクールの優勝をきっかけに、一躍日本中で知られるようになったばかりでなく、ヨーロッパの名門コンクールにも出場し、2009年5月、ダブリン国際ピアノコンクール優勝。9月、リーズ国際ピアノコンクールで第2位を受賞し、ヨーロッパでも注目を集めている。19歳の若さでカーネギーホールへアメリカ・デビューしニューヨーク・タイムズで高い評価を得た。2011年には再びカーネギーホールへ招かれ、またロンドンのウィグモアホールでのデビューも成功させ、着々と国際的キャリアを築いている。ソリストとしては、ウクライナ国立管弦楽団、ドイツ室内管弦楽団、ミュンヘン・ユース・オーケストラ、東京交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団など多くのオーケストラと共演。現在、3枚のCDをリリースしている。2011年9月、第60回ARD(ミュンヘン)国際音楽コンクール・ピアノ部門で優勝と合わせ聴衆賞を受賞した。



Olivier Gardon (ハノーファー音楽大学教授 及び パリ市立高等音楽院教授)

ワイマールでは Volkmar Lehmann に、ウィーン・シュトゥットガルトでは Oleg Maisenberg に師事。ワイマール・リスト・トリオでの活躍も評判で、世界各地で演奏ツアーを開催。また、ベートーベン音楽祭をはじめ、多くの音楽祭での演奏経験も豊富。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団等世界的に著名なオーケストラとの共演も果たす。日本では、NHK交響楽団と共演。多数のコンクールで受賞歴があり、彼の演奏は、CD・ラジオ・テレビを通して、国境を越えた評価を得ている。2007年よりワイマール・フランクフルト音楽大学でピアノ教授を務め、国内外でレッスンを開催。



Ilja Scheps (ケルン・アーヘン音楽大学教授)

モスクワのチャイコフスキー音楽院でピアノを学ぶ。1982年から10年間モスクワ管弦楽団のソリストを務め、そこで多くの著名な歌手や楽器奏者と共演。アメリカや、オーストラリア、中国、イスラエル、イタリア、マルタ、ニュージーランド、スペイン、ハンガリー、トルコなど、世界各地にてコンサートを行っている。1992年からドイツに拠点を置き、2003年からはケルン音楽大学分校アーヘンの教授に、そして同時に国際マスタークラスの主任となる。さらに、中国の多くの音楽大学から客員教授に任命されている。国際ピアノコンクールの審査員メンバーでもある。

ヴァイオリン



Tomasz Tomaszewski (ベルリン芸術大学教授)

ポーランドで生まれ、ワルシャワ音楽院でWranskiの元で学ぶ。その後、レニングラード音楽院ではGutnikovの元で学び、フライブルクではMarschnerの元で研鑽を重ねる。ヨーロッパやオーストラリアをPolish String Quartetと共にコンサートツアーで周り、ソリストとしても、様々なコンサートツアーを行う。1982年以來、ベルリンオペラ座のコンサートマスターを務める。また、1983年より、ベルリン芸術大学で教授を務める。{ベルリンオペラ座の室内楽ソリスト}グループの代表であり、1988年よりコンサートを開催している。日本や中国、アメリカでもコンサートを開き、また多くのレコーディングも行っている。**※受講希望が集中するレッスンの為、一次締切までのお申込みをおすすめします。**



Nicolas Koeckert (ウイーン音楽大学教授)

1979年に、ミュンヘンの有名な音楽一家に生まれる。バイオリンの基礎をロシアの師Olga Voitowaに学び、16歳でヴェルツブルク音楽大学のGrigori Zhislin教授に師事して本格的にバイオリンを学び始める。1998年からは、ケルン音楽大学にてZakhar Bron教授に師事、2007年には優秀な成績で修士号を獲得した。長年に渡って、国際的にメジャーな舞台上で活躍を続け、情熱的かつあたたかな演奏とたしかな技術は、観客もマスコミをも魅了している。2001年ノヴォシビルスク国際バイオリンコンクールで優勝し、世界三大コンクールの1つといわれるモスクワのチャイコフスキー国際コンクールでは、ドイツ人として初めての受賞成績を残す。その功績を讃えて、バイエルン州は彼に芸術賞を授与した。2003年モントリオール国際音楽コンクールでも表彰され、リアナ・イサカーゼ国際コンクールでは2位を受賞。Lawrence Foster, Sir Colin Davis, Michail Jurowski, Jonathan Nottをはじめ、著名な指揮者達との共演歴も豊富。また、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー管弦楽団やロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団など、世界各地の名高いオーケストラや室内楽奏者と

も数多く共演している。現在は、クラシック音楽レーベルNaxosとも精力的に活動を共にしている。彼のディスコグラフィは、受賞歴もあり、Fritz Kreisler編曲のロシアとスラヴの小品集は、イギリスの弦楽器専門誌The Stradの月間推薦CDにも選ばれた。なかでも、José Serebrierの指揮でイギリスのロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団と演奏したAram KhachaturianのViolin Concerto and Concerto-Rhapsodyは、Naxosの月間推薦CDとして選ばれただけではなく、長年の間ベストセラー3位に君臨した。最新のCDでは、ピエール・ロードによるバイオリン楽曲を、自身の父であるRudolf Koeckertと共に収録して、多数のラジオやテレビ番組に取り上げられた。数年間に渡って国内外で定期的にマスタークラスの講師としても活躍して、2011年からはウイーン音楽大学で教授として指導を続けている。ミラノのGiovanni Battista Guadagnini制作のバイオリンを愛用。**※受講希望が集中するレッスンの為、一次締切までのお申込みをおすすめします。**



Kathrin ten Hagen (ライプツィヒ音楽大学教授)

14歳という若さでイフラ・ニーマン国際コンクールやJakob-Stainerコンクールで2位を受賞。イフラ・ニーマン国際コンクールでは、モーツァルト賞も受賞。14歳でニュルンベルク交響楽団と同じ舞台上でデビューを飾って以来、ハンブルク交響楽団やモスクワ放送交響楽団など世界各地で数多くのオーケストラと共演を続けている。ベルリン芸術大学ではAntje Weithaasに師事。また、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学ではIgor Ozimに師事し、優秀な成績で学士号を取得した。2007年～2009年、ニューイングランド音楽院で奨学生として、Donald Weilersteinに師事して修士号を取得、卒業。自身も、Thomas Brandis, Zakhar Bron, Robert Mannをはじめ、多くの師から国際的なマスタークラスでレッスンを受けた経験を活かし、若者の音楽交流や教育に精力的に取り組んでいる。講師経験として、Donald Weilersteinの助手や、Yellow Barn Festival・International Music Academy Chernihivのマスタークラス講師などがある。彼女の演奏は、オランダの著名なクラシックラジオ放送で取り上げられ、受賞歴も豊富。一例として、2007年カリフォルニア国際青年音楽コンクール

優勝、2009年Donald Portnoy国際バイオリンコンクール優勝、が挙げられる。また、シュレースヴィヒホルシュタイン音楽祭(ドイツ)やthe Yellow Barn Festival(アメリカ合衆国)をはじめ多数の音楽祭での演奏経験がある。室内演奏者としての活躍も著しく、多くの著名演奏家や室内楽団と共演してきた。設立メンバーでもあるTenHagen四重奏団は、ドイツの2011年オーベルストドルフ夏季音楽祭等で特別賞を受賞。現在、クラシック音楽を広めるべく、ラルス・フォークト(サイモン・ラトルも認めたドイツのピアニスト)が設立したプロジェクトに参加して、学校での演奏会にも積極的に参加している。彼女が特に興味関心を寄せるのは、現代音楽で、1970年代以降の作曲家(Henze, Lutoslawski, Marschner, Balassa, Suslin, Widmann, Yun and Zimmermann等)の曲目演奏にも定評がある。2007年には、Jörg Widmannによる現代音楽Etude IVの演奏が評価されて、Ruggiero Ricciコンクールで特別賞を受賞。

チェロ



Maria Kliegel (ケルン音楽大学教授)

現代における最高のチェリストの1人である。1987年パリでのロストロポーヴィッチコンクールに優勝し演奏家としてのキャリアが始まる。彼女の多くのナクソス社からのレコーディングには、ベートーヴェン・ブロッホ、ブラームス、ブルッフ、ドヴォルザーク、エルガー、ラロ、サンサエン、ショスタコーヴィチ、シューマン、タベルネル、チャイコフスキー他有名な協奏曲が含まれている。ベートーヴェンにおいては全作品のレコーディングを終えている。また、室内楽もブラームスやショパンに至るまで、様々な作品がCDにレコーディングされている。また、現代作品の発表にも力を尽くし、南アフリカ前大統領マンデラ氏へのオマージュでは、南アフリカ国から招聘される。1986年にケルン音楽大学の教授となり現在に至る。彼女は、1693年にストラディバリウスによって作られた伝説のチェロ(モーリス・ジャンドラによって所有され、後にNRWに)を使用している。フランクフルトにてMolzahn教授に学び、アメリカにてJanos Starkerに学ぶ。2001年より、ピアニストのNina Tichmann、ヴァイオリニストのIda Bielerと共にXYRION TRIOとして活動を行っている。

※受講希望が集中するレッスンの為、一次締切までのお申込みをおすすめします。

ギター



Andrzej Mokry (ハレ・ウィッテンベルグ マルティンルター大学教授)

Andrzej Mokryは、ポーランドに生まれ、ワルシャワ音楽アカデミーでMarcin Zalewskiに、ケルン音楽大学では、Dieter Kreidlerに師事し、ブリュッセルでは、Odair Assadに師事した。彼は様々な国内外のコンクールで優勝し、ヨーロッパ諸国及び日本へのコンサートに招聘されている。また、同時にテレビやラジオへの出演、CDも数多くレコーディングされている。リサイタルと同時に、ソリストとしてGewandhaus Orchestra Leipzig、Orchestra "Klassika" St. Petersburg、Philharmonic Chamber Orchestra Katowice、Wuppertaler Symphoniker等、数多くのオーケストラと共演している。

2019年 ドイツ国際マスタークラス 参加申込書

※必ず要項の内容をよく確認した上でご記入ください。申込用紙に不備・記入漏れがある場合、申込手続きができない場合がございます。

		申込日	年	月	日
氏名	フリガナ 姓	フリガナ 名	助成対象コンクール・オーディション 開催年月: 20 年 月		
	ローマ字 (姓・LAST NAME)	ローマ字 (名・FIRST NAME)			
パスポート記載名 (ローマ字)	(LAST NAME)	(FIRST NAME)	コンクール・オーディション名		
生年月日	西暦 年 月 日	年齢 歳			
保護者氏名	フリガナ	専攻楽器	1人部屋・2人部屋 ※1人部屋は追加料金が発生いたします		
	フリガナ <small>※18歳以下の方は保護者の同意が必要です</small>	部屋希望			
希望教授		希望日程	A日程・B日程・C日程		
住所 (書類送付用)	フリガナ	都道 区市 府県 郡			
	〒				
電話番号	()	携帯電話	()		
FAX	()	e-mail(必須)			
パスポート情報	〈番号〉	〈有効期限〉	年 月 日	国籍	
	<small>※申請中の方は申請中と記入し、取得次第書面(FAX・メール可)にてご連絡ください</small>				
緊急連絡先	〈氏名〉	〈続柄〉			
	〒	TEL			
レッスン曲目 ①	邦題〈作曲者名〉	〈邦題〉	〈演奏時間〉		
	原語〈作曲者名〉	〈作曲者の年代〉	〈原題〉		
レッスン曲目 ②	邦題〈作曲者名〉	〈邦題〉	〈演奏時間〉		
	原語〈作曲者名〉	〈作曲者の年代〉	〈原題〉		
学歴・賞歴					
現在までに 師事した先生					
航空券手配	<input type="checkbox"/> 航空券手配を希望 (成田発・関空発・セントレア発・その他) <input type="checkbox"/> 航空券手配は不要 <input type="checkbox"/> その他手配を希望 ※延泊・周遊等アレンジが必要な場合はご希望の詳細をご記入ください。				
署名	上記の内容で申込をします 署名 _____ 印 日付 _____				

※レッスン曲の原語は作曲者(フルネーム)、作曲者の年代、曲名の順番で記入してください

例) Ludwig van Beethoven (1770-1827) aus Klaviersonate Nr.30 op109

1,Vivace ma non Troppo

2,Prestissimo

3,Gesangsvoll, mit inniger Empfehlung ,Andante cantabile ed espressivo

※手配に必要なため、この申込用紙と一緒にパスポートの顔写真ページのコピーをご提出ください(渡航者全員分)。

申請中の方は出来上がり次第、ファックスまたは郵送にてお送りください。

Internet Download

©TIAA